さんにち NIE ワークシート

山梨日日新聞

年　　組　名前：

問1
山梨県が植樹を通じた国際交流の場として鳴沢村に整備し開設した場所の名称を答えてください。

問2
キックオフイベントでは、だれがどのような木を植樹しましたか。

・だれが

・どのような木

問3
今後、この場所は、どのように使われますか。

問4
式典では、山梨英和中の生徒が、どのような宣言を読み上げましたか。

40カ国の大使が植樹、交流

県 鳴沢に「世界の森」開設

県が鳴沢村の県有林に植樹を通じた国際交流の場として整備した「世界の森やまなし」が開設し、19日、キックオフイベントとしてベトナムやオーストリア、南アフリカなど40カ国の在日大使らが現地で植樹した。県は今後、国際会議などの際の記念植樹の会場として利用していく。

「世界の森やまなし」は、同村の全国育樹祭記念広場に隣接した県有林約1㌶に整備された。県内や近隣都県で開かれる国際会議などの際に記念植樹する会場として利用することを想定している。県が推進する「自然首都圏構想」の一環として、森林環境を活用した国際交流を進めたり、県の魅力を海外に発信したりする場として活用する。

19日のキックオフイベントには、40カ国の在日大使や国や県、地元市町村の関係者ら、県が招待した約250人が出席。県の花のフジザクラやミズナラ、イロハモミジなど約150本を植樹した。

記念植樹する出席者　＝鳴沢村

植樹前の式典で、長崎幸太郎知事は「気候変動の国際的な取り組みが急務となる中、『世界の森やまなし』が持続可能な世界に向けた活動の一助になれば」とあいさつ。山梨英和中の生徒約50人が「私たちは森に関心を持ち、学び、知識を深める」とする宣言を読み上げた。

出席者には、県や、やまなし森の紙推進協議会、県内障害者施設が協力して制作した、県有林のヒノキ製スマートフォンスタンドが贈られた。〈武田寛明〉

（2023年10月20日付 山梨日日新聞22面）

教育目的以外の無断転載 複製および頒布は禁止します
Copyright © 2023 山梨日日新聞社 THE YAMANASHI NICHINICHI SHIMBUN.